

第 387 回 昭和の森自然観察会

昭和の森のどんぐりは何種類？

白波志帆(千葉市)

日時：2024年10月13日(日) 10:00～12:00

参加者：27名(大人13名子ども14名)、指導員：9名、事務所1名、計37名

担当指導員：花島、白波

爽やかな秋晴れの中、10月の観察会は『どんぐりむらのぼうしやさん』という絵本の読み聞かせからスタートしました。最後に絵本に出てきたような帽子を作ってもらうので、こどもたちにどんな帽子を作るかイメージを膨らましなが材料を拾ってもらえるのではないかと考えました。

今回の観察会は7月の研修会で藤井徳子先生から学んだ絵本を使った導入、非認知能力を高める自由度の高い観察会を意識し実践しました。

絵本後は早速、市町村の森に向かいます。昭和の森にある6種類のどんぐりの木に目印である色分けした紐を巻き付け、その木の周りにあるどんぐりや葉っぱを拾って準備していた箱に入れてもらいます。それぞれの殻斗や葉っぱの違い、種類の見分け方などについて観察を行いました。拾う時間を長めに設けることで「さっきのどんぐりと大きさが違う!」「葉っぱの形が違う!」など、お子さん自ら違いに気付くことができました。どのどんぐりなのか事前に配布した資料と見比べながら真剣に考える姿が微笑ましかったです。

さて後半は、楽しみにしていた工作の時間です。おわん型の紙皿に自分で拾ったどんぐりや葉っぱ、お花、あらかじめ準備したポンポンなどを貼り付けオリジナルの帽子を作ってもらいました。お子さんの為の企画でしたが、意外にも大人の方も集中してこだわりの作品を作っていました。それぞれ個性的で素敵な帽子が完成しました。

参加者の感想…観察だけでなく工作もあり とても楽しめた。どんぐりの種類を考えるのが難しかった。どんぐり虫を初めて触れて良かった。など…

自然観察と、工作を組み合わせることで大人、こどもも満足度の高い観察会となりました。反省点として工作を行うまでの準備に時間がかかり時間ロスになったので予め他の指導員にお願いしておくべきでした。



絵本の読み聞かせ



どんぐり拾い、観察



手作り帽子と記念撮影